輝き集人

医療法人・南労会　紀和病院
紀和ブレスト（乳腺）センター長

梅村定司さん（49）

子供に「がん早期発見」授業

乳がんの専門外科医として今年9月、県内初の子供を対象にしたがん授業を始めた。橋本市立の小学校2校の6年生に、がんの早期発見・治療の必要性や、がんを患った人たちを思いやり、支える心の大切さを訴えた。現在、女性の12人に1人が患うといわれる乳がん。「大切な人ががんにならないために何ができるか考えて」。真剣な表情で聴き入る子供たちを見て授業に大きな手応えを感じた。

生まれ育った那賀町（現紀の川市）は江戸時代の外科医、華岡青洲の出身地。青洲は記録の残る例としては世界初の全身麻酔による乳がん手術を行ったことで知られる。小学校の授業でも学んだ郷土の偉人は、将来進むべき道を指し示す心の師となった。県立医科大卒業後、専門として外科を選び、乳がん治療の実績があった同大学付属病院紀北分院（かつらぎ町）で勤務した。

幼い頃、祖母と行った銭湯で片方の乳房を失った女性を見て怖さを覚え、視線をそらした。それに気付いた女性の目に浮かんだ悲しみの表情。そして医師として出会った一人の少女の姿。乳がんで亡くなった母親に装着されていた医療器具を欲しいと彼女は望んだ。育ててくれた母親に触れていた全てを形見にと思ったのか。

「あのとき乳がんという病気を知っていたら幼いなりに接し方が違ったのではないか。そして少女の母親がもっと早く検診を受けていたら助かっていたのではないか」。乳がんという言葉は、苦い思いを伴って自らの記憶をよみがえらせる。

2009年、紀和ブレスト（乳腺）センター（橋本市岸上）を開設。乳がんの早期発見・治療を目的とした県内初の専門医療施設だ。啓発のため県内外で数多くの講習会を開いて検診の大切さを説き、がん経験者などを講師に招いた公開講座やイベントも企画してきた。そしてたどり着いたアイデアが子供へのがん教育。大人は受診の必要を理解していても何かと理由をつけて行動に移さないもどかしさがある。来年度からは医師会などの協力で橋本市内の全小学校で授業を行う計画だ。「心が真っさらだから素直に受け止めてくれる。子供たちへの期待は無限大です」と目を輝かせた。

【松野和生】

「子供の頃からがんについて知り、考えてほしい」と話す梅村さん
＝橋本市の紀和ブレスト（乳腺）センターで

MAINICHI
毎日新聞
11月26日（木）
2015年（平成27年）
発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251　電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社